

第 429 回集談会

1. 日時：2011 年 11 月 28 日（月）16:30～
2. 場所：2 A 講義棟（中央棟 2 階）
3. 座長：天然物化学教室 助教 鵜飼和代 助教(内線 4603)
4. 演者：生薬学教室 助教 小林匡子先生（内線 4606）
5. 演題：メタボリックシンドローム軽減に対する薬用資源からのアプローチ
6. 要旨：肥満はインスリン抵抗性、糖尿病、高血圧、高脂血症などの原因になり、最終的には動脈硬化の発症のリスクを高める、いわば最上流に位置する症状である。種々の食品中のタンパク質は糖質制限食として主に肥満の予防に利用されていることが知られており、インスリン分泌促進作用を持つある種のペプチドは糖尿病治療薬の新たなカテゴリーとして注目されている。また肥満により肥大・増殖した脂肪細胞では、活性酸素の産生が増加するに従って炎症性サイトカインの分泌が増加しており、動脈硬化巣が形成されやすくなるので、抗酸化物質による活性酸素の除去は LDL の酸化防止と共に、プラーク形成の予防になると言われている。

現在までに種々の生薬や植物及びこれらから得た化合物について肥満や糖尿病、動脈硬化症を予防する可能性を探ってきたが、今回は肥満の予防という観点から、2 型糖尿病マウス及び高脂血症マウスに対するローヤルゼリーペプチド及び植物由来の抗酸化物質の影響について紹介したい。